

魅力ある言語活動を設定し、 評価場面を精選する

ポイント① 魅力ある言語活動を設定する

新学習指導要領においても、言語活動の重要性は継承されています。これは、指導事項を指導者による教授や反復練習だけで身に付けさせるのではなく、実生活で行われる具体的な言語活動を通して指導することを示しています。言語活動を設定することで、単元の大きな流れの中で、学習課題の解決に向けて、生徒が主体的に試行錯誤する場面が生まれます。その過程で、資質・能力が育成されます。

言語活動を具体化する際に、以下の点に留意しましょう。

- ①身に付けさせたい力に合わせて、言葉に着目しながら思考、判断、表現させる場面を設定する。
→ [知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を関連させる。
- ②生徒に言語活動への興味をもたせ、主体的な学習につなげる。
→ 生徒が見通しをもって学習に取り組んだり、実生活とのつながりを意識したりすることができるようにする。
- ③目標の達成に向かって試行錯誤しながら、生徒が自ら学習を進める場面を設定する。
→ 教師が設定したスモールステップだけで授業が進むのではなく、生徒が自らの学習の進め方を決定することができるようにする。

ポイント② 評価場面を精選する

学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要です。観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの状況を把握できる段階で行うなど、評価場面を精選しましょう。

そして、単元を構想する際には、各時間の具体的な学習活動を踏まえ、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか、指導と評価の計画を立てます。

右の事例では、第3時の物語を記述する場面で[知識・技能]を、第4時の物語を交流する場面で[主体的に学習に取り組む態度]を、第5時の物語を推敲する場面で[思考・判断・表現]の評価をしています。身に付けさせたい資質・能力が発揮される場面で適切に見取り、評価することが大切になります。



第4時 物語の交流の場面

ここでは、物語の交流を通して語句の差異や技法の効果的な用法について考え、友人の意見を基に次時に向けて工夫点を見いだしているかを見取る。

交流をして終わりではなく、次時の推敲に向けて、見通しをもって描写の工夫を考えさせる。

ポイント③ 生徒の具体的な姿を想定する

言語活動を設定し、指導と評価の計画を立てたら、指導者が実際に言語活動を行ってみましょう。

右の実践では、指導者が実際に物語文を書くことで、評価規準を基に、学習活動を踏まえて「おおむね満足できる」状況(B)と判断する、生徒の具体的な姿を想定しています。このように想定することで、何をどのように評価するかが具体的にイメージでき、身に付けさせたい資質・能力に応じた指導のポイントも明確になります。また、「十分満足できる」状況(A)や「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への手立てを考える際にも有効です。

2学年（B書くこと）

「あの日の自分」の物語を書こう
～表現の効果を考えて描写する～

国語科実践事例

物語を書くことを通して、効果的な描写を考え、より読み手のイメージがふくらむ表現や言葉を繰り返し吟味したり、問い直したりする。

ポイント 1 どのような資質・能力を身に付けるために、どのような学習を行うのかが分かるようにします。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ	①「書くこと」において、表現の効果を考えて描写し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く表現の効果を考えて描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。

指導と評価の計画（全5時間）

時	学習活動	評価する内容	評価方法
1 ・ 2	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○日常生活や行事を振り返り、物語の題材にしたい出来事を選ぶ。出来事は詳しく思い出し、メモに書き留める。 ○物語の山場を意識し、あらすじを考える。	ポイント 2 第1・2時は、B(1)ア・イに基づいて学習状況を捉え指導を行います。単元の目標としていないことから、本単元の評価には含みません。	
3 ・ 4	○描写を工夫して物語を書く。 ポイント 3 ここでは、類語辞典等を使い、複数の言葉の意味の差異を理解しているかどうかをワークシートの記述や生徒の作品から確認します。 ○物語を読み合い、意見や感想を交流する。 ポイント 3 ここでは、友達の助言を踏まえ、見通しをもって描写を工夫しようとしているかどうかを生徒の姿やワークシートの記述から確認します。	[知識・技能] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	ワークシート・物語 観察・ワークシート
5	○前時までの見通しを基に、推敲する。 ○最初に書いた物語と推敲した物語とを読み比べて、良くなったと思う箇所を示し、描写の工夫や言葉の選出の観点から振り返る。 ○単元の学習を振り返る。	[思考・判断・表現] ① ポイント 3 ここでは、表現の効果を考えて描写を工夫し、自分の考えが伝わる文章になっているかをワークシートの記述や生徒の作品から確認します。	ワークシート・物語

授業改善のポイント

本実践では、第3時で学習した、「言葉の意味の差異を理解して使うこと」や既習事項（文学的文章を読む際に学んだ表現技法等）を振り返らせながら、第5時の学習を行った。〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を関連させることが、生徒の資質・能力の育成につながる。

実践事例の詳細は右のQRコードから

